

救急科 *Emergency Medicine*

1. スタッフ構成

- 馬越 健介(救命救急センター長、災害医療センター長)
2002年愛媛大学医学部卒
専門分野:救急・集中治療、災害医療
資格:日本専門医機構救急科専門医、日本救急医学会指導医、日本集中治療医学会集中治療専門医、厚生労働省臨床研修指導医
- 橋 直人(主任部長、救命集中治療室長)
2003年愛媛大学医学部卒
専門分野:救急・集中治療、災害医療
資格:日本専門医機構救急科専門医、厚生労働省臨床研修指導医
- 田中 光一(部長)
2005年愛媛大学医学部卒
専門分野:救急・集中治療、災害医療、病院前救急
資格:日本専門医機構救急科専門医、日本航空医療学会認定指導者、日本集中治療医学会集中治療専門医、厚生労働省臨床研修指導医
- 芝 陽介(部長)
2009年愛媛大学医学部卒
専門分野:救急・集中治療、災害医療
資格:日本専門医機構救急科専門医、日本集中治療医学会集中治療専門医、厚生労働省臨床研修指導医
- 塩岡 天平(医長)
2011年東京医科大学卒
専門分野:救急・集中治療
資格:日本専門医機構救急科専門医・総合内科専門医、日本内科学会指導医、日本腎臓学会腎臓専門医、日本透析医学会透析専門医、厚生労働省臨床研修指導医
- 越智 麻理絵(医長、地域医療キャリア形成支援センター勤務)
2011年自治医科大学卒
専門分野:救急・集中治療、内科一般
資格:日本専門医機構総合内科専門医、厚生労働省臨床研修指導医
- 佐藤 裕一(医長)
2012年愛媛大学医学部卒
専門分野:救急・集中治療、災害医療
資格:日本専門医機構救急科専門医、日本集中治療医学会集中治療専門医
- 竹内 龍之介(医長)
2016年愛媛大学医学部卒
専門分野:救急一般、集中治療
資格:日本専門医機構救急科専門医
- 中城 晴喜(医長)

2016年愛媛大学医学部卒
専門分野:救急一般、集中治療

資格:日本専門医機構救急科専門医

- 二宮 鴻介(医長)
2017年愛媛大学医学部卒
専門分野:救急一般、集中治療

資格:日本専門医機構救急科専門医

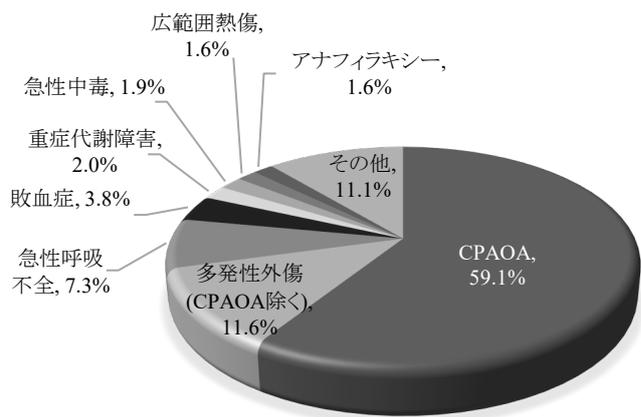
- 中村 聡志(医長)
2017年愛媛大学医学部卒
専門分野:救急一般、集中治療

資格:日本専門医機構救急科専門医

2. 実績

■ 主な対応症例

疾患名	症例数
CPAOA	472
多発性外傷(CPAOA 除く)	93
急性呼吸不全	58
敗血症	30
重症代謝障害	16
急性中毒	15
広範囲熱傷	13
アナフィラキシー	13
その他	89
合計	799



3. 2024年度目標

- (1) 病院前救護の強化
- ・ 愛媛県ドクターヘリ事業の推進
 - ・ 愛媛県消防防災ヘリ、他県ドクターヘリとの連携
 - ・ 松山市消防局ワークステーション隊との連携

- (2) シームレスな救急・集中治療体制の充実
- (3) 学会発表、雑誌への投稿

4. 学術関係

(1) 学会発表および講演

1. 田中光一、伊藤由未子. 細径の経鼻胃管を使用していたが経鼻胃管症候群を発症した 1 例. 第 38 回日本臨床栄養代謝学会学術集会. 神戸 (2023.5.9-10)
2. Koichi Tanaka, Mohammed E. Choudhury(Department of Molecular and cellular Physiology, Graduate School of Medicine, Ehime University)、Satoshi Kikuchi(Department of Emergency Medicine, Graduate School of Medicine, Ehime University)、Kensuke Umakoshi、Hajime Yano(Department of Molecular and cellular Physiology, Graduate School of Medicine, Ehime University)、Norio Sato(Department of Emergency Medicine, Graduate School of Medicine, Ehime University)、Junya Tanaka(Department of Molecular and cellular Physiology, Graduate School of Medicine, Ehime University) and Jun Takeba(Department of Aeromedical Services for Emergency and Trauma Care, Graduate School of Medicine, Ehime University). CHANGES OF BOTH INNATE AND ADAPTIVE IMMUNE RESPONSES AMELIORATE THE OUTCOME OF SEVERE SEPSIS:A STUDY WITH SELECTIVE DOPAMINE D1 RECEPTOR(D1R) AGONIST. 46th annual Conference on Shock. Portland Marriott Downtown Waterfront PORTLAND, OREGON (2023.6.17-20)
3. 田中光一、Mohammed E. Choudhury(愛媛大学大学院医学系研究科分子細胞生理学分野)、矢野元(愛媛大学大学院医学系研究科分子細胞生理学分野)、田中潤也(愛媛大学大学院医学系研究科分子細胞生理学分野). BBB 透過性ドパミン D1 受容体アゴニストの敗血症における生存率及び認知機能障害に対する保護効果の検討. 第 32 回日本病態生理学学会大会. 東京 (2023.8.5-6)
4. 田中光一、Mohammed E. Choudhury(愛媛大学大学院医学系研究科分子細胞生理学分野)、菊池聡(愛媛大学大学院医学系研究科救急医学講座)、馬越健介、矢野元(愛媛大学大学院医学系研究科分子細胞生理学分野)、竹葉淳(愛媛大学大学院医学系研究科救急航空医療学講座)、田中潤也(愛媛大学大学院医学系研究科分子細胞生理学分野). 敗血症関連脳症(SAE)に対するドパミン D1 受容体アゴニストの効果. 第 37 回日本 Shock 学会学術集会. 名古屋 (2023.8.18-19)
5. 田中光一、越智麻理絵、二宮鴻介、中村聡志、竹内龍之介、中城晴喜、塩岡天平、佐藤裕一、橘直人、馬越健介. 当院救急科で経験した経鼻胃管症候群と考えられた症例に関する検討. 第 38 回日本救命医療学会総会・学術集会. 東京 (2023.9.23)
6. 越智麻理絵. 急性期医療におけるサルコペニアと栄養管理. 令和 5 年度松山市医師会救急蘇生講演会. 松山 (2023.10.10)
7. 中村聡志. 破傷風とその予防について 最近の自験例の報告. 令和 5 年度松山市医師会救急蘇生講演会. 松山 (2023.10.10)
8. 馬越健介. 医療機関と南海トラフ地震. 令和 5 年度松山市医師会救急蘇生講演会. 松山 (2023.10.10)
9. 田中光一、斎藤美瑛、山崎誠、土居瞳、毛利貴恵. 新型コロナウイルス感染症の拡大が愛媛県ドクターヘリの活動時間に及ぼした影響についての検討. 第 30 回日本航空医療学会総会. 釧路 (2023.11.3-4)
10. 田中光一、馬越健介. ドパミン D1 受容体アゴニストは敗血症の生存率を向上させ、せん妄を防ぐ. 第 59 回愛媛県立病院学会. 松山 (2023.11.11)
11. 田中光一、Mohammed E. Choudhury(愛媛大学大学院医学系研究科分子細胞生理学分野)、菊池聡(愛媛大学大学院医学系研究科救急医学講座)、馬越健介、斎藤美瑛、越智麻理絵、橘直人、矢野元(愛媛大学大学院医学系研究科分子細胞生理学分野)、佐藤格夫(愛媛大学大学院医学系研究科救急医学講座)、竹葉淳(愛媛大学大学院医学系研究科救急航空医療学講座)、田中潤也(愛媛大学大学院医学系研究科分子細胞生理学分野). ドパミン D1 受容体アゴニストは敗血症モデルマウスに対して救命効果を発揮し、敗血症関連脳症を防ぐ. 第 51 回日本救急医学会総会・学術集会. 東京 (2023.11.28-30)

(2) 論文・著書

1. 二宮鴻介、三宅悠香、中城晴喜、竹内龍之介、佐藤裕一、田中光一、馬越健介. 血胸を伴う出血性ショックを来した左胃動脈瘤破裂の 1 例. 日本救急医学会雑誌 34 巻(5 号). 206-209 (2023.5)